

特別講演 1

「緩和ケアのアプローチ

長寿時代のエンド・オブ・ライフ・ケア」

東京大学大学院人文社会系研究科死生学

応用倫理センター上廣講座 特任准教授

会田 薫子 先生

平和と豊かさと長命は人類の希求するところであり、医学・医療が目指してきた生存期間の延長は寿命革命につながった。一方で、さまざまな加齢変性を抱えながら長い時間をかけて最期の時へ向かう過程において、本人の心身の苦痛を増すと思われる医療行為が広く行われることにもなった。このジレンマにどのように対応すべきか。医療技術が次々に汎用される日本社会において、時代に即した議論を興し対策を講ずることは焦眉の急である。

長命が長寿となるために必要なのは緩和ケアのアプローチである。「いつでも、どこでも、緩和ケア」を提供し、どのように生き、どのように生き終わるべきかという死生学の問いを本人・家族とともに考えることが医療者には求められている。本人の視点から見た QOL の維持、「本人の満足」と家族の納得のために、医療や介護の専門職はどのように対応していくべきか。新しい時代のエンド・オブ・ライフ・ケア（人生の最終段階を支えるケア）とはどのようなものか、ご一緒に考えたい。